

ファーマムクラブ、野菜づくりにチャレンジ

～農家のお嫁さん、仲間と共に新たな目標を見つけて野菜づくりに奮闘中～

堤 元美（海部農林水産事務所農業改良普及課）

【平成25年2月15日】

【要約】

海部地域に住む非農家出身、若手女性農業者のグループ「ファーマムクラブ」の会員有志ら4名が、共同で野菜づくりを始めた。家族の協力を得ながら、農業の基礎を学び、本業の合間に野菜づくりに取り組み、野菜を収穫できるようになった。失敗しても野菜づくりを続け、自分達で作った野菜の販売や加工品をつくってみたいと夢は広がっている。農家の嫁になったのだから、農家生活を大切にしたいと奮闘中である。

1 はじめに

農村輝きネット・海部に所属する「ファーマムクラブ」（会員数21名）は、海部地域に住む非農家出身の若手女性農業者のグループである。グループ員の栽培している作目は、施設トマトやイチゴ、水稻、観葉などバラバラであるが、農業を営んでいる「ファーム」のお母さん「ママ」が集まりグループ活動を始めた。会員同士のは場視察や、先輩女性農業者から郷土料理や寄せ植え等を学ぶ活動は、若い女性農業者にとって仲間づくりの場になっている。ここでは、野菜づくりの経験がない会員らが仲間を誘ってスタートした野菜づくりの奮闘ぶりを紹介する。

2 野菜づくりにチャレンジ

野菜づくりは、グループ活動の帰りに喫茶店で話をしていた時、「農家の嫁だけど野菜を作ったことがない」という話で盛り上がったのをきっかけに始まった。「一人でやるよりみんなでやったほうが楽しい。そのほうが、挫折しないで、できるかも。」と思った会員が、夫に相談し、空きビニールハウス内での野菜作りを決意した。

平成23年の春先に、メンバー4名が集まり、作る野菜や、いつから始めるかなど相談した。スイスチャードやミナレットなど目新しい野菜を作ろうと、忙しい合間を縫って集まり、草むしりから開始した。



メンバーで野菜づくりに挑戦

3 ファーマムクラブで勉強会を開催

農業の基礎を学んだことのないメンバーばかりであり、夏には、愛知県農業総合試験場の職員OBを講師に「土づくり」の勉強会をクラブ活動として開催した。肥料や農薬、これまでの農作業の手伝いでは、いかに気にしていなかったかを気づかされることになった。講師の方から学んだことを思い出しながら肥料をまき、畝を作り、



野菜作りの基礎を学ぶ

種まき、これでいいのかと不安になりながら作業を行なった。実際にやってみると、虫との戦い、それでもなんとか野菜を収穫することができた。

次作の春夏野菜を栽培する前に、栽培中に皆で感じた不安や疑問点を解決しようと、自分達の畑に先述の講師を招いて勉強会も行った。



収穫できた野菜
(左手前：ミナレット、
右手前：カリフラワー、奥：ミズナ)



ハウス内での勉強会

4 野菜づくりから、仲間と夢も広がる

野菜作りをやってみようと思いついてから1年、「一人では続かなかった」と、メンバーは声をそろえる。それぞれが得意分野を受け持ち、楽しく効率よくできた。これからは、毎年、失敗をくり返しながらでも継続していくことと、情報交換しながら野菜作りの輪を広げていきたい。また、将来は、自分達で作った野菜を販売したり、加工品を作ったり、おせっかいお婆さんになって子供達に野菜作りの楽しさや難しさを伝えていきたいと夢を語ってくれた。

5 最後に

農家のお嫁さんがグループで始めた野菜づくりは、仲間と一緒に取り組む楽しさと、家族への感謝の気持ちがあふれている。

「せっかく農家の嫁になったのだから、仲間と共に明るく楽しい暮らしをめざし、家族や農業、農家生活を大切にしていきたいと思います。」という言葉に、農家の嫁としての決意を感じた。